

子苗のみあ



古くは遠き追想する極世ふ忍るも
もれいひも西と人も歎美せし
とふゆへはれと家祖の神也
よりつはふに百の年月をこころみぬ
かれ粟津の太神廟伊賀の左園
いふと又なりと都より市衢に
ふとさひさふはふの徒はふ典雅
ふ

宝永二年等躬翁退悼詞昏畧ス物々降リ袖かぬれし小松もろ

正徳元年祖翁十七回忌ヲ吊フ詞昏畧ス 何のつてうけるひやや松星

享保十二年故翁三十三回忌 祇の若葉木曾の松星一生の原れふし

市一とめふし侍を慕ふて人 常葉やあけのさうりともひる

寛保元年時雨塚ヲ建筑ニ序アリ全三年故翁五十回忌退善詞昏畧ス

四方山を物々集めてゆるる 是ノ年春洛ノ握々庵祖翁ノ五十回集

ヲ編ントテ同門ノ因ヲ以テ晋流ニ序ヲ乞又晋流カ所藏ノ祖翁松島獨吟ノ

俳諧ヲ編入センヲ乞依テ序ト其俳諧トヲ認ノ送ル折柄原松頼死シテ

止タリト云

壮年江戸ニ寓シ又京坂ノ間ニ遊ビ或ハ諸國ヲ湯遊ス

俳 其角兩吟^{江戸ニテ} 其角嵐雪三吟^{江戸ニテ} 乙州松堂三吟^{大坂ニテ}

支考全^{ニテ} 嵐雪沾穂全^全 全三人ノ百韵^全

諧 等躬全^全 鬼貫言水全^{京ニテ} 獨吟廻文ノ百韵一卷

此他名家ノ俳諧五卷アリ人名畧ス

家 策月集 内一冊俳諧 蕉門録二冊 一冊俳諧

四冊 全二冊發句

全一冊和哥

^{蕉トモ自序}
鮮明版本

一冊發句

未ニ祖翁真筆ノ藏畧類十五卷曾良ノ各二軸等躬ノ各二軸各何画賛横物何句全紙オノ明細畧アリ

右十八品ノ軸物ヲ等躬ヨリ譲與セラレ等躬ノ俳裔ヲ嗣タリト然ニ明和年間

ノ火災ニ罹リテ烏有ニ帰シタリ惜哉

宝曆十一年土月廿五日壽八十二歳ニシテ歿ス十念寺ニ葬ル

祖 晋流門人修驗二階堂氏
紅葉庵ト号ス

桃

安永二年祖翁八十年祭ヲ営ム諸風士門人ホヲ會シテ祭祀ス正式
俳諧書画會ホヲ執行ス祖翁紀念ノ梢ナレハ軒ノ栗ノ實ノル季節
ヲ正辰ト定ム迎九月二日ニ與行スト云

右祭典集ヲ著ス序ハ雪中庵蓼太撰ナリ

門人数十名アリ

雨

考

挑祖門人通称石井久右衛門

夜話亭ト号ス

寛政五年祖翁百年忌ヲ吊フ遠近ノ風士ヲ會シテ正式俳諧ヲ
興行ス

石川瀧ニ祖翁ノ瀧降埋ノ句碑 八幡社内ニ祖翁ノ軒ノ栗ノ

句碑ヲ建 企主ハ雨考旧臺竹馬英之ナリ

文化十一年青蔭集ヲ著ス

文政十年七月六日歿ス千用寺ニ葬ル

多代女

雨考門人市原氏晴霞庵ト号ス

後乙二ノ門ニ入又一具ニ隨身ス

享和二年廿七歳ニシテ寡トナリ三十歳ニシテ雨考ニ從ヒ俳諧ヲ奉

ヲ後乙二ノ門人トアルニ死シテ一具ニ隨身ス清民ト交接兄弟ノ
如シ

淺香市集 多代句集 辞世集ホヲ著ス

祖翁ノ田植哥ノ句碑ヲ十念寺金毘羅堂前ニ建

天保十四年祖翁百五十年回ニ郷裡ノ俳士門人ホヲ會シテ正式俳諧

ヲ興行セリ

慶應元年八月九日壽九十歳ニテ歿ス十念寺ニ葬ル

清

民

諱ハ賴之姓ハ平氏ハ山邊ナリ等躬門人玉水ノ遠孫ニシテ父ハ應之ト

称シ挑祖ノ門人ナリ始是非庵後觀山居ト号ス

享和元年九歳ニシテ父應之ニ從テ俳門ニ入ル長スルニ及テ家貧ニシテ俳

諧ヲ奉フノ餘カナシ十七歳ノ時憤發シ予ハ祖翁ヲ師トシテ獨立セント

依テ他ニ師ヲ求メス營業ノ餘暇漢畚ヲ叔父館道英ニ奉セ書法ヲ

伯父須田秀香ニ奉フ俳諧ハ古今ノ歌書俳書ヲ研究スルヲ常ニ

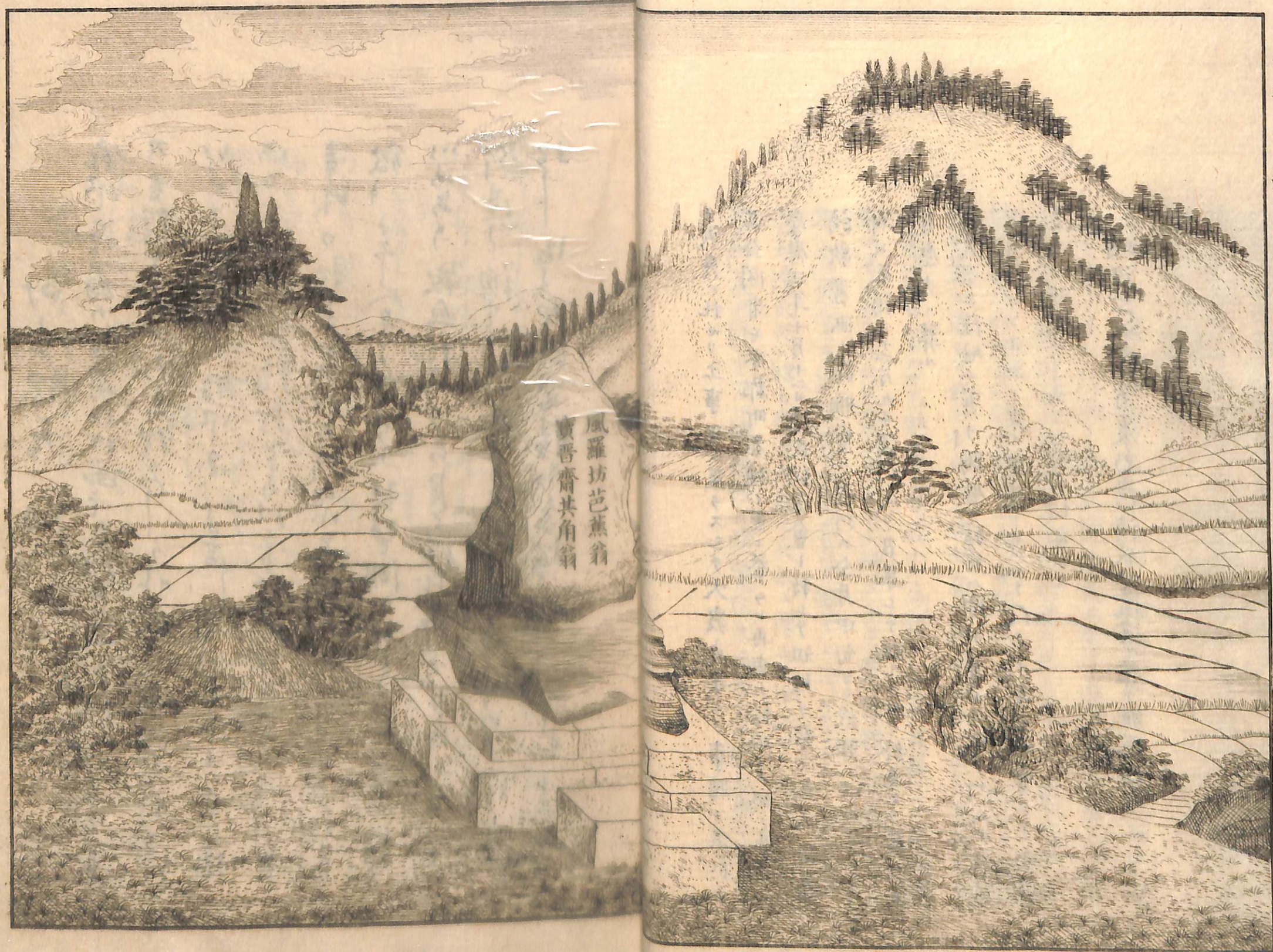
夜季ヲ以テス或ル寸ハ雨考多代女オカ會席ニ臨ミ俳句ヲ推叩シ諸
俳家ノ評ヲ乞ヒ歳三十五ニシテ粗素志ヲ貫徹セシカ猶奮テ祖翁
ノ室ニ入ランコトヲ勤メタリ

天保二年漢季習字ノ私塾ヲ開ク郷裡ノ俳弟ハ皆筆弟ヨリ成
立タルモノナレハ一郷ノ俳士ハ皆清民ノ意ヲ遵守シテ一家ノ親ヲナス
今ニ至ルマテ其協同ヲ愉快トスルコト往時ニ異ナルヲナシ安政四年
默池潮水竹烟ハ一時ニ來泊セシ寸百韻及ヒ哥仙ヲ與テ行シテ栗飯
集ヲ著ス是ヨリ前キ古今人ノ佳句并ニ祖翁其他ノ金言秀語文章
歌書漢書ニ至ルマテ俳諧ニ有益ナル各類ヲ拔萃蒐輯シテ御鏡
集ト号シテ發句ハ十二ヶ月ヲ十二冊トシ文章語類ハ冊數ヲ定メス
年々一冊ツクテ出版セント先正月ノ部ヲ上梓セシコト門人ハ尽力
セシカ清民死ニ臨ミ喪中戊辰ノ兵亂ニ際シテ中止セリ明治二年ニ
至リ門人ハ計リテ一種新法ノ活字版ヲ工風シテ談工事ヲ東京

ノ大喪ニ托セリ工事半ニ至ラスシテ大喪死去シテ事蹟ヲ混亂シ
其企図者モ亦郡町各種ノ吏ニ拳ラレ再興ノ餘暇ナク終ニ怠ル
慶應三年十月十二日清民紀念會ト稱シテ祖神ヲ祭り正式俳諧
詩歌書画ノ諸雅會ヲ與テ行ス全月中旬ヨリ凡邪ノ心地ナリシカ
漸次衰弱シ十二月九日諸門人ヲ召集シテ眠レカ如ク終焉セリ壽七十五
普應寺ニ葬ル

清民祭日陰曆十二月ヲ陽曆ニ移セハ即チ一月ナリ依テ門人ハ協議
シ一月九日ヲ正辰ト定メ雪奠ト号シテ門人ハ年々相會シテ祭祀
スルコトヲ決定セリ是ヲ一郷ノ初會トス

明治二十六年首夏乃考清民ノ遺書ニ據テ曉窓誌



時分探訪記

此頃其翁の言葉正徳通一の振舞を踊りしを
乃昔難きものなり程なり一これ其体固然探訪を
いふのみ金銀の帳目も一多し一多しなり
山のさす安んじ候とあるは事柄を付るあり
幸候の如き筆情の晴風花柳なり一これ其
彼も一これ其筆情なり一これ其筆情なり
いふあり夜更なり一これ其筆情なり
此頃一漁舟の如きものなり一これ其筆情なり
相一これ其筆情なり一これ其筆情なり

髪を脱いで笑ふなり池を悠々とつらつらに
いふなり一これ其筆情なり一これ其筆情なり
夢をみるなり一これ其筆情なり一これ其筆情なり
あまの筆情は通一の筆情なり一これ其筆情なり
極まる其角は二つなり一これ其筆情なり一これ其筆情なり
此頃一これ其筆情なり一これ其筆情なり

時分探訪記

髪を脱いで笑ふなり池を悠々とつらつらに

寛保三年閏十月十二日馬場御酒番流石筆

了山のうけ集

其のいふ川をみ

元禄五年十月二十日

了山のうけ集

祖

其のいふ川をみ

其のいふ川をみ

其のいふ川をみ

其のいふ川をみ

元禄五年十月二十日

其のいふ川をみ

祖

其のいふ川をみ

元禄五年十月二十日

其のいふ川をみ

祖

其のいふ川をみ

其のいふ川をみ

其のいふ川をみ

其のいふ川をみ

其のいふ川をみ

其のいふ川をみ

其のいふ川をみ

其のいふ川をみ

祖

其のいふ川をみ

祖

其のいふ川をみ

祖

了山

わんや同く如きを軒の栗

苦のとき夜中

切取山の井を
糸とあはれ
と

時つゆふふふふふふふふふふ

たふねふき楽年月の夢くもり

秋
一
水
轉
至
以
自
在

棒　う矢の羽の最と　輪　うとく

二
四

之
録
二
年
次
知
明
何
勝
有
其

禮部
次
祭典
寺
寺
寺

箱

栗 弟

茅

曾良

等

活
子

素蒙

祖祠祀百事祭率納

明治廿六年五月廿一日

於の
所を
男は

高橋 宗之丞 詞之部や二五

[illegible]

世にふれ人知れ粟の食

新の粟むしあうのまふあうか

和のちり
瑞きり
今
子
終

高野山 龍王寺 龍王寺

林之海屋

序法

羽
沙

誠存

木甫

東京

喜 望

陸

南

修齊

耕雨

誠信

丈黃

步

永
樣

あゝるや葉のぬるさやしら
 人々もさうかゝりて思ふ人何るもあや
 葉落つてゆくもさうかゝりて思ふ人何るもあや
 身もさうかゝりて思ふ人何るもあや
 さうかゝりて思ふ人何るもあや
 人のさうかゝりて思ふ人何るもあや

大坂 旭
 信 乙
 雲 瓢
 梅 窓
 梅 窓
 芳 泉

明治二十二年五月廿一日

古今人衆の
 葉は
 花よりぬるさやしら

故人 李 芳

花よりぬるさやしら
 葉は
 花よりぬるさやしら

大坂 李 芳
 香 雨

花よりぬるさやしら
 葉は
 花よりぬるさやしら

李 成
 文 視
 曲 川

花よりぬるさやしら
 葉は
 花よりぬるさやしら

梅 窓
 芳 泉

松山

龜遊

招學

香齋

南

採
茶

卷二

五

相陰

仙
宰

源
水

卷之四

卷之

九

志

52

海を渡るも風を渡るも

西京 一葉

りつゝも山を渡るも

故 會志

また山を渡るも

中山 兩山

かたや山を渡るも

二市村 山海

はらうゝ山を渡るも

々 一城

ねたも山を渡るも

沼村氏 北外

あゝかたや山を渡るも

赤形氏 米甫

あゝかたや山を渡るも

能也 百富

永よりや遠人にていつ

故 郭山

うけの山を渡るも

道山氏 夢山

永よりや遠人にていつ

福良 鬼城

うけの山を渡るも

何男 榴菊

糸懸の山を渡るも

栢村 栢村

笑ハ山を渡るも

甲斐 市良

一寸山を渡るも

何島 市吉

海を渡るも

白岩 烟分

東風吹や梅の枝の香を
 東風吹や梅の枝の香を
 東風吹や梅の枝の香を
 東風吹や梅の枝の香を
 東風吹や梅の枝の香を
 東風吹や梅の枝の香を
 東風吹や梅の枝の香を
 東風吹や梅の枝の香を
 東風吹や梅の枝の香を
 東風吹や梅の枝の香を

仙名 言衛 中山 吉松氏 東京 誠信 浮勢 橋溪 故

一更 吟海 可祝 味新 江左 山家 梨地 生獨 竹堂

東風吹や梅の枝の香を
 東風吹や梅の枝の香を
 東風吹や梅の枝の香を
 東風吹や梅の枝の香を
 東風吹や梅の枝の香を
 東風吹や梅の枝の香を
 東風吹や梅の枝の香を
 東風吹や梅の枝の香を
 東風吹や梅の枝の香を
 東風吹や梅の枝の香を

事系 本定 福島 中野 油井 沼田 吉松 三石

花鈴 香光 泰園 都風 梅石 露曉 曲石 山海 石芝

可升 唐志 甘雨 叶彦 甘子 素石 登呬 白梅 素風 水外

故
白
浮

永モリ
白梅

永
モリ
筆
山

米甫

東京
如
學

木
八
子

明倫彙編
家範典
孝行典
列女一
楊氏
桑布

お代をあらふはるりあ

極くまことにいふは、うき

戸といふは、縁をたも、ゆき

わらあふは、いふは、いふは

いふは、いふは、いふは

いふは、いふは、いふは

いふは、いふは、いふは

いふは、いふは、いふは

小丸

良友

松

不事

菜園

井川

常民

北外

二市

杉山

賢甲

井川

耕里

極物

いふは、いふは、いふは

中世

里山

いふは、いふは、いふは

油井

二峰

いふは、いふは、いふは

中世

居山

三福二年四月二日

いふは、いふは、いふは

内氏

源平

いふは、いふは、いふは

中世

里山

いふは、いふは、いふは

福山

里山

いふは、いふは、いふは

福山

里山

いふは、いふは、いふは

福山

里山

あつてふあふあつてふあつてふあ

小ハマ 梅山

ほつてふあふあつてふあ

山形氏 斗涼

あつてふあふあつてふあ

シナノ 月窓

あつてふあふあつてふあ

々 月窓

あつてふあふあつてふあ

又視

あつてふあふあつてふあ

五修

あつてふあふあつてふあ

信口

あつてふあふあつてふあ

起風

あつてふあふあつてふあ

あつてふあふあつてふあ

栗家 故 可伸

あつてふあふあつてふあ

々 秋夕

あつてふあふあつてふあ

々 吟雪

あつてふあふあつてふあ

松氏 飛雪

あつてふあふあつてふあ

あつてふあふあつてふあ

低る 雪江

あつてふあふあつてふあ

ヤヒ 雪江

あつてふあふあつてふあ

シナノ 堆山

あつてふあふあつてふあ

梅家 雪江

四月十五日 西武氏

くさくさ 柳のうさ

杉浦

さしり 柳のうさ

後志 墨雨

さくさく 柳のうさ

石精 有隔

あつ 柳のうさ

新雪 三寅

あつ 柳のうさ

大坂 似水

あつ 柳のうさ

西条 雨名

あつ 柳のうさ

中野 香存

あつ 柳のうさ

飯坂 涼竹

は 柳のうさ

幸四氏 如葉

は 柳のうさ

和歌 指月

は 柳のうさ

石田 小鉢

は 柳のうさ

油井 無雪

は 柳のうさ

世川氏 春之

は 柳のうさ

和歌 和翠

は 柳のうさ

能登 雲仰

は 柳のうさ

在来 雲丈

は 柳のうさ

無何 柳山

は 柳のうさ

無何 雲耕

子
子

程圖

秋露

雨
曉

招父

清竹

不二法

壽仙

友山

橋石

素蒙

關
夕

神

松
方

楚
琴

名
多
少

故

招招

歸來兮 卷之六

明倫彙編 家範典 卷一百一十五

松系氏

文平

あけふのやまをゆく 横へり

福山

秋
月

一通 丁巳年 三月 廿九日 記

白生

三
涯

きふふふふふふふふふ

楊石

國語
こゝに
社會學
を
講

小林氏故

申
候

學問を志す者

赤子

五
川

常々玉音を以てて

宣統元年四月五日

依子馬氏

宝来

有之也。屬之。去之。以。事。之。也。

元文五年五月廿一日

張氏

好水

前々々々々々々々々々

明正長子三月廿九日卒

大柳氏

一
席

歴々々々々々々々々々々々

五十二

晴雪

孝之至也

抱月

一寸の光をとおすもみづの

小言

留る

雲の影をうけぬやまの山

文記

文記

ささげの葉をうけぬやまの山

三炭

三炭

ささげの葉をうけぬやまの山

三炭

三炭

ささげの葉をうけぬやまの山

三炭

三炭

ささげの葉をうけぬやまの山

三炭

三炭

ささげの葉をうけぬやまの山

三炭

三炭

ささげの葉をうけぬやまの山

三炭

三炭

ささげの葉をうけぬやまの山

三炭

三炭

ささげの葉をうけぬやまの山

三炭

三炭

ささげの葉をうけぬやまの山

三炭

三炭

ささげの葉をうけぬやまの山

三炭

三炭

ささげの葉をうけぬやまの山

三炭

三炭

ささげの葉をうけぬやまの山

三炭

三炭

ささげの葉をうけぬやまの山

三炭

三炭

ささげの葉をうけぬやまの山

三炭

三炭

ささげの葉をうけぬやまの山

三炭

三炭

ささげの葉をうけぬやまの山

三炭

三炭

ささげの葉をうけぬやまの山

三炭

三炭

ささげの葉をうけぬやまの山

三炭

三炭

ささげの葉をうけぬやまの山

三炭

三炭

ささげの葉をうけぬやまの山

三炭

三炭

ささげの葉をうけぬやまの山

三炭

三炭

生歌

まろけしやうふののりしや
ちう魚や水もなれてあゆま

西条 素山
羽田 直次

まろけしやうふののりしや
ちう魚や水もなれてあゆま

故 素山

まろけしやうふののりしや
ちう魚や水もなれてあゆま

晋等

まろけしやうふののりしや
ちう魚や水もなれてあゆま

天保十四年九月の年
まろけしやうふののりしや
竹馬

まろけしやうふののりしや
ちう魚や水もなれてあゆま

草庵

まろけしやうふののりしや
ちう魚や水もなれてあゆま

神前 梅市

まろけしやうふののりしや
ちう魚や水もなれてあゆま

歌富

まろけしやうふののりしや
ちう魚や水もなれてあゆま

和琴

まろけしやうふののりしや
ちう魚や水もなれてあゆま

要田 秋瀬

まろけしやうふののりしや
ちう魚や水もなれてあゆま

石崎 稻波

まろけしやうふののりしや
ちう魚や水もなれてあゆま

故 岩山

まろけしやうふののりしや
ちう魚や水もなれてあゆま

山辺氏 玉水

貞享三年五月廿九日

誠海屋のあやうき屋をさるる

事永

尋香

新紀のあやうき屋をさるる

古歌氏

有光

つるふらうのあやうき屋をさるる

コレ

梅亭

是るふらうのあやうき屋をさるる

古歌氏

奉水

まーつるふらうのあやうき屋をさるる

故

果窓

種もつるふらうのあやうき屋をさるる

福シマ

太甫

新立のあやうき屋をさるる

福坂

弘浦

あーつるふらうのあやうき屋をさるる

古歌

陸山

遠くへつるふらうのあやうき屋をさるる

古歌氏

晴山

あつるふらうのあやうき屋をさるる

故

龍二

あつるふらうのあやうき屋をさるる

松山

あつるふらうのあやうき屋をさるる

水外

あつるふらうのあやうき屋をさるる

初春

あつるふらうのあやうき屋をさるる

明治九年正月十日

古歌氏

権五

遊舟

きぬ

文視

有儀

神
符

雨石

省我

夏の乾坤

每

涼
竹

一
睞

笑山

中
馬

北鯤

梅
海

現今可伸屋之園

永明堂



四月廿四日七月五日

入るやうなところへは踊り出しを
龍泉

ふと一と這わたりや星の如き
披石

けふの海や秋のふと一と
故 蕉甫

あゝ地味な顔のふと一と
故 吉田氏 等雲

山の折々ありては屋敷の如し
大和田氏 杜賞

詩人のふと一と 據る何ふふ
村井氏 雨林の

あつたふと一と 品あふ
故 等舟

あつたふと一と ありや
王辰馬 郭巴

あつたふと一と ありや
故 水禾

あつたふと一と ありや
吉江 木間

あつたふと一と ありや
大槻 雷崎

あつたふと一と ありや
下孫 耕雨

さうやふふれぬものも 桶の

東五

伯志

さうやふふれぬものも 人通の

大世

甘雨

降ぬーものおもひあつて

如雪

何うともな 桜もや 風う

文六三事 三月廿二日 卒

藤了氏

静夫

清つきー 鐘も 鳴りし 風う

山辺氏

清和

水うーやふふれぬものも せう

梅酒

福徳々々々々々々々々々々々々

宝暦八年四月廿九日 卒

法四氏

自哺

律のーふれぬものも 芦あ

宝暦三年十月廿九日 卒

山四氏

清氏

清ーさやふふれぬものも

故

西子

すーさやふふれぬものも

玉福

湘江

さうやふふれぬものも

しう

う疎

さうやふふれぬものも

サキ

如泉

清ーさやふふれぬものも

福シマ

孫家

すーさやふふれぬものも

中

中候

清ーさやふふれぬものも

五

五修

さうやふふれぬものも

水

水外

中々露をくく振るまゝみうん
山崎氏 招峰

おやん 招のあふみすゝみ
小橋氏 芳和

自のあゝまゝくくすゝく
石川 瑞月

招やねいゝあゝくくみ
、 招月

まゝあゝくくくくあゝくく
、 雲山

あゝくくあゝくく川やまゝくくね
招年

くくくくあゝくくくくあゝくく
、 英

風のあゝくくくくくくくくく
大供 緑竹

招のくくくくくくくくくく
、 雲

あゝくくくくくくくくくく
、 雲

昭和四年七月の卒

招のくくくくくくくくくく

招のくくくくくくくくくく
、 雲

招のくくくくくくくくくく
、 雲

招のくくくくくくくくくく
、 雲

招のくくくくくくくくくく
、 雲

招のくくくくくくくくくく
、 雲

招のくくくくくくくくくく
、 雲

招のくくくくくくくくくく
、 雲

招のくくくくくくくくくく
、 雲

招のくくくくくくくくくく
、 雲

明治三十四年八月

嘆きし目もとめさるるうふく

ささ葉の影にうさかきく

ささ人の影にうさかきく

ささねー中を嘆くうさかきく

明治三十四年八月

ささや枝布屋に標

ささ嘆きしうさかきく

乙女

中世

中世

晋流

子弓

ささや枝布屋に標

ささ嘆きしうさかきく

ささ嘆きしうさかきく

明治三十四年八月

ささ嘆きしうさかきく

ささ嘆きしうさかきく

ささ嘆きしうさかきく

ささ嘆きしうさかきく

ささ嘆きしうさかきく

ささ嘆きしうさかきく

池菱

池菱

池菱

柳保

柳保

遠月

遠月

福

福

ヤヒ

ヤヒ

小笠氏

小笠氏

補
思
山

太南

可祝

素心

桐子氏

下河

品月

一
曉

楊氏
叔
清室

津龜

晉
古
仙

理圃

錄
竹

又
鶴

為所
秋
翠

中
永
川

五
尤儀

卷一百一十五

明治二十六年六月三日

とよきふけと岩松やそのもと 吉田氏 清信

隙のふち掃きぬゆう 吉田氏 直井

接ぎや母のきふけと松と 吉田氏 休山

きぬき 吉田氏 経典

人 吉田氏 松立

山 吉田氏 瑞

明治二十六年六月三日

瑞ふけ 吉田氏 瑞

山 吉田氏 成之

其 吉田氏 秋月

人 吉田氏 一海

瑞 吉田氏 涼竹

半 吉田氏 口笑

蓮 吉田氏 蓮阿

自 吉田氏 蓮里

雲海の舟てきと逢ふるに

定休

一松

中風やふくはるきと逢ふ

定休

松源

夕風やふくはるきと逢ふ

竹内氏

松秀

夕風やふくはるきと逢ふ

故

李銘

夕風やふくはるきと逢ふ

福シマ

秋雨

夕風やふくはるきと逢ふ

福シマ

雲常

生類

富永年二月四日

夕風やふくはるきと逢ふ

お永氏

等類

富永年二月四日

夕風やふくはるきと逢ふ

お永氏

母子

夕風やふくはるきと逢ふ

故

川柳

夕風やふくはるきと逢ふ

口氏

夕風

富永年二月四日

夕風やふくはるきと逢ふ

福シマ

上風

夕風やふくはるきと逢ふ

作ヨ

極陽

夕風やふくはるきと逢ふ

山海

夕風やふくはるきと逢ふ

福シマ

三止

夕風やふくはるきと逢ふ

中々

月出

明推一夢

下

志

夢

源田氏

尚

夢

山

夢

言

山

夢

海

夢

水

夢

水

夢

水

夢

故

白

夢

白

夢

山

夢

夢

山

夢

夢

山

夢

山

夢

故

山

夢

元禄四年

山

夢

夢

山

夢

故

山

夢

故

山

東家
 竹窗
 初定
 東家
 南溪
 素吟
 黃衍
 芳叢
 洗玉
 巴水
 清溪
 東家
 竹窗
 初定
 東家
 南溪
 素吟
 黃衍
 芳叢
 洗玉
 巴水
 清溪

內卷民
故
等
極

安田氏
卜
水

遠山氏
 早記
 作爲氏
 青人
 城
 光
 旭
 玉

故
風
也

おろろ 海へ 舟より 鳴る ね

三止

あはれききりきりきり

海田氏

まぢふ 船より 海へ 舟より

清之

岩より 舟より 舟より 舟より

政

之直

な の 様 り づ け ず け ず け ず

素水

素水

不食

まはれききりきりきり

太田氏

孫 然 舟 儀 舟 儀 舟 儀

重之

船 儀 舟 儀 舟 儀 舟 儀

故 陸田氏

米澤

まはれききりきりきり

山田氏

母 の 舟 儀 舟 儀 舟 儀 舟 儀

陸田氏

舟 儀 舟 儀 舟 儀 舟 儀

補シマ

舟 儀 舟 儀 舟 儀 舟 儀

文石

舟 儀 舟 儀 舟 儀 舟 儀

何セ

之石

舟 儀 舟 儀 舟 儀 舟 儀

舟 儀 舟 儀 舟 儀 舟 儀

曲山氏

竹淮

舟 儀 舟 儀 舟 儀 舟 儀

舟 儀 舟 儀 舟 儀 舟 儀

素水

云友

舟 儀 舟 儀 舟 儀 舟 儀

一学

涼風くあつて秋葉の使ひつゝの
綿は

朝のけしきも久しきふくやうな
糸に

吹雪もさきさきや
ハサレ

首もや内と外と
ヒタチ

ふんふんちんちん
小外

神様
三灰

一握のふくさき
糸束

ふんふんちんちん
糸束

ふんふんちんちん
糸束

ふんふんちんちん
糸束

秋もや江戸もふんふんちん
豊方

秋の乾坤

秋もや江戸もふんふんちん
瑞風

秋もや江戸もふんふんちん
桐分

秋もや江戸もふんふんちん
道隆

秋もや江戸もふんふんちん
三止

秋もや江戸もふんふんちん
末甫

福つゝやいぬさうきと 姑の家

故

等谷

いふまやいふさう種さくさくみ

き

貝通

福つゝやいぬさうおのれ音の心

貝山

七夕の糸をちりちり娘の子

五條

おのれさうきさよりをわのふり

柳島

おのれさうき海さあを天の川

披石

おのれさうきはるなふれをくう

多々

おのれさうきあきさうき急瀬

急瀬

おのれさうきあきさうきうき

素石

おのれさうきあきさうきうき

おのれ

おのれさうきあきさうきうき

おのれ

おのれさうきあきさうきうき

おのれ

おのれさうきあきさうきうき

おのれ

おのれさうきあきさうきうき

おのれ

おのれさうきあきさうきうき

おのれ

おのれさうきあきさうきうき

おのれ

おのれさうきあきさうきうき

おのれ

おのれさうきあきさうきうき

おのれ

おのれさうきあきさうきうき

おのれ

新雪や白くしるしを掃きし

仙名

江二

あふ市や香のちゆ人うき

白松

風あふきしを掃きし

故

滝

新雪や白くしるしを掃きし

秋

新雪や白くしるしを掃きし

洞

新雪や白くしるしを掃きし

水二

新雪や白くしるしを掃きし

志水

秋の夜を静かに座す

故

水

秋の夜を静かに座す

山

秋の夜を静かに座す

月

秋の夜を静かに座す

故

氣

秋の夜を静かに座す

車

赤

秋の夜を静かに座す

浦

秋の夜を静かに座す

山

東

新雪のすけふまけり——昔 冬
 あまのちかぬき ぬき ぬき
 新雪のすけふまけり 雪 降
 うきうきかきふるや 水の音
 新雪のすけふまけり 水の音
 川と海と人々 水の音
 山と海と人々 水の音
 新雪のすけふまけり 水の音
 うきうきかきふるや 水の音

山 宇山
 大い

新雪のすけふまけり——昔 冬
 あまのちかぬき ぬき ぬき
 新雪のすけふまけり 雪 降
 うきうきかきふるや 水の音
 新雪のすけふまけり 水の音
 川と海と人々 水の音
 山と海と人々 水の音
 新雪のすけふまけり 水の音
 うきうきかきふるや 水の音

山 宇山
 大い

とちりびと事々 彦つれ月の中

枯石

又とちりびと事々 彦つれ月の中

終生氏 故

中之

桐葉のささやかしあふり月

西条

草舟

又とちりびと事々 彦つれ月

草月

又とちりびと事々 彦つれ月

一海

又とちりびと事々 彦つれ月

梅雪

又とちりびと事々 彦つれ月

下流

遠望

又とちりびと事々 彦つれ月

梅雪

梅塙

秋まじりつと小川の夕べ

東条

蕉窓

あふれつと小川の夕べ

大槻

晋泉

あふれつと小川の夕べ

小沢

洋々

あふれつと小川の夕べ

下川

岩倉

あふれつと小川の夕べ

下サ

春之

あふれつと小川の夕べ

雲石

あふれつと小川の夕べ

清月

あふれつと小川の夕べ

星川

東海

あふれつと小川の夕べ

市兵氏

田池

植物

初出の冬に於てハミをの 底の葉

堀田氏

文起

赤川やミヤノ川に於てハ 相一系

小澤江

二瓶

清くもく 柳の葉はハミをの 底の葉

故

相宇

ちの葉はハミをの 底の葉

昭川

春重

おのの葉はハミをの 底の葉

市宝

西海

おのの葉はハミをの 底の葉

大坂

雪堂

おのの葉はハミをの 底の葉

雪堂

何れもハミをの 底の葉

為家

おのの葉はハミをの 底の葉

弘浦

おのの葉はハミをの 底の葉

山本

おのの葉はハミをの 底の葉

山本

おのの葉はハミをの 底の葉

山本

おのの葉はハミをの 底の葉

山本

おのの葉はハミをの 底の葉

山本

おのの葉はハミをの 底の葉

山本

おのの葉はハミをの 底の葉

山本

おのの葉はハミをの 底の葉

山本

之 栢 葉

五

疑北

兩考

梅翁

年 亥

米 廟

之 栢 葉

五

疑北

兩考

梅翁

年 亥

米 廟

極に白濁に染る
故 古事記 男十才

一 宣
竹内氏 故

定 芳
華氏 故

杜 叢
唐氏 故

相 采
自出 故

貞 道
書氏 故

常 志
書氏 故

丈 規
故

白 葉
故

小 越
書氏 故

泉 家
川田 故
桃 祖

初編の序

笑ふ楽の初めは、も中へん

故

楯二

全

くもーるそくやうの初め

故 西氏

旧臺

休の樂り、はるる、秋さき

水芽

生 乾

是の中を、あはれ、すく

故 西氏

等仙

む、あはれ、秋さき、あはれ

清夏

淋、あはれ、あはれ、あはれ

故

斜月

あはれ、あはれ、あはれ、あはれ

故 西氏

糸子

あはれ、あはれ、あはれ、あはれ

何豆

連水

あはれ、あはれ、あはれ、あはれ

下川サキ

観月

あはれ、あはれ、あはれ、あはれ

山中

桂月

あはれ、あはれ、あはれ、あはれ

江戸

竹圃

あはれ、あはれ、あはれ、あはれ

主君氏

源流

あはれ、あはれ、あはれ、あはれ

あはれ、あはれ、あはれ、あはれ

故

園二

晴夜やあつた月を山の影

故

吾村

馬つらりふねを山崎の影

北二

浦崎や聲をきくも風をきくも

下暖

わささやまをきくも風の影

東月

わささやまをきくも風の影

難竹

わささやまをきくも風の影

東酒

海のうもつた月をきくも

難史

海のうもつた月をきくも

長崎

わささやまをきくも風の影

女竹

焚火の火をきくも風の影

スルカ

雪香

家政書目三月より卒

わささやまをきくも風の影

高井氏

晋歌

わささやまをきくも風の影

故

晋風

わささやまをきくも風の影

松居

わささやまをきくも風の影

雪山

わささやまをきくも風の影

信氏

石崎

わささやまをきくも風の影

大坂

十水

わささやまをきくも風の影

湖崎

河が明かすふさふさの春の光

故

徳孝

ふれふれ甲のまはし編みくえ

イ十八

梅地

一ちきと風のほほりしやうしめ

宝山

衣食

享和四年三月廿六日

あまのけし、結をふねし月明の

雲谷氏

東生

ふたれと膝をふくしたる 砂の風

大和田氏

夢覚

計新

ありー雪のゆきかきうきふさふさ

ヤヒ

素白

やうき屋のゆきふさふさやぬきふさ

梅川

梅英

つゆふさふさふさのまうしうき

七活

一水

あまのけし

焚火のふさふさのまうしうき

故

梅素

月の光ふさふさのまうしうき

故

斗月

山猿のふさふさのまうしうき

伊ヤ

玉想

雪のふさふさのまうしうき

上サ

富瑞

しんがふさふさのまうしうき

福

冬呂

あまのけしふさふさのまうしうき

春園

境めくくわいんをわく

大柳

杉田

ねんをわくくわいんをわく

下田

柳波

くわいんをわくくわいんをわく

宮田

くわいんをわくくわいんをわく

松崎

あうーやわくくわいんをわく

文記

くわいんをわくくわいんをわく

如重

くわいんをわくくわいんをわく

陸中

一眺

くわいんをわくくわいんをわく

弘浦

くわいんをわくくわいんをわく

夢氏

くわいんをわくくわいんをわく

石崎

沙すらのねんをわくくわいんをわく

其山

くわいんをわくくわいんをわく

矢保八郎工月廿二日卒

くわいんをわくくわいんをわく

太田氏

士富

くわいんをわくくわいんをわく

米川氏

李雄

くわいんをわくくわいんをわく

安政二年八月廿九日卒

くわいんをわくくわいんをわく

井上氏

梅本

くわいんをわくくわいんをわく

明治五年一月廿九日卒

くわいんをわくくわいんをわく

柳氏

士國

くわいんをわくくわいんをわく

明治五年一月廿九日卒

くわいんをわくくわいんをわく

尾山氏

由松

沙土の砂をきりぬきしる

女山

天保八年二月廿二日

大田氏

橋本さんへおきよの庄の

士

富

藤さんへおきよの庄の

政

雄

安政三年八月廿二日

井上氏

梅本さんへおきよの庄の

梅

本

明治五年一月廿二日

折尾氏

折尾さんへおきよの庄の

士

國

明治五年一月廿二日

折尾氏

折尾さんへおきよの庄の

由

松

ちうけのふをねだてをさし
 ちうね木のちをひきぬき
 ちうね木のちをひきぬき
 ちうね木のちをひきぬき
 ちうね木のちをひきぬき
 ちうね木のちをひきぬき
 ちうね木のちをひきぬき
 ちうね木のちをひきぬき
 ちうね木のちをひきぬき
 ちうね木のちをひきぬき

車本 岩浦
 カヒ 榎本
 上ケ 桑吉
 白ハ 旭吉
 腰サカ 芳美
 中ノ 素心
 車本 松年
 山ノ 松年

ちうね木のちをひきぬき
 ちうね木のちをひきぬき
 ちうね木のちをひきぬき
 ちうね木のちをひきぬき
 ちうね木のちをひきぬき
 ちうね木のちをひきぬき
 ちうね木のちをひきぬき
 ちうね木のちをひきぬき
 ちうね木のちをひきぬき
 ちうね木のちをひきぬき

上サ 蓮丈
 尾ノ 潘松
 永田氏 松女
 南 南
 重 重
 一 一
 子 子
 雲 雲
 修善氏 蓮月

あゝ海や はの びくきききき

改

遊鳥

たゞるよ 房を 接しや その 月

あそ氏

遊山

影うの 心 露も さらけ や 夕の 月

徳三

雪羽

つゝ さらけ 接しや つゝ その 月

小夕

鱗一

あゝの 心 露も さらけ や 夕の 月

小夕

雪岬

あゝの 心 露も さらけ や 夕の 月

小夕

文石

あゝの 心 露も さらけ や 夕の 月

小夕

招鶴

あゝの 心 露も さらけ や 夕の 月

小夕

如泉

横井 文石 松家の 松を けし 月

工千

文松

松人の 心 露も さらけ や 夕の 月

小夕

素風

松の つゝ 露の 心 松を けし 月

小夕

吾家

松の つゝ 露の 心 松を けし 月

小夕

雪岬

松の つゝ 露の 心 松を けし 月

小夕

雪衣

松の つゝ 露の 心 松を けし 月

小夕

涼竹

松の つゝ 露の 心 松を けし 月

小林氏

松雪

松の つゝ 露の 心 松を けし 月

能ト

鳥聲

新中ひのくまをみそけう

石井氏

佳山

植物

各仙やふふふふふふふ

东京

千畝

後集 諸子集卷之八

内山氏

文起
蒼仙

[illegible]

解到子時也

此外

桑弓弓や弓弓弓弓弓弓弓弓弓弓

曉東

葉のむやみ

५४५

尾全

天竺國

莊月

學以事之 明其 極其 之 一 喉

五十四

東月

冥ありやふあうきけそくま

東京

氣年

方丈のきんぎょや冬の梅

故

玉扇

一休のふしをいふ

笑山

名 彦 子 之 和 子 也 栢 栢

版
升
力

竹
種

かき声や 歩みたる足音 風の音

イヨ

藝
田

孝子ふのこもすゝし

六十八

牙

七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

大極

平志

根の
大
根

双
影

りわゝゝあ内あやゝ大相川

下里坊

奇石

一物々望々々々々々々々々々々々

下川

露山

お殿元事書りし書

かゝるのありきりきりきりきりきり

板江氏

文栖

何れも何れも三りきりきりきりきり

故

李山

あはあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

琢月

あ何れゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

故

甫月

あはあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

故

琢月

あはあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

書

干瀨

あはあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

書

一睡

あはあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

末甫

あはあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

如茶

あはあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

如茶

あはあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

如茶

あはあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

如茶

あはあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

如茶

あはあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

如茶

あはあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

如茶

言

祐月

三才圖會

梅

清江雜錄

不

眉

雲笈七籤

卷

意

抱朴子

吾

抱朴子

事

文

抱朴子

子

福

抱朴子

書

抱朴子

故

名

抱朴子

在

書

抱朴子

在

書

楊雄

事

魯

楊雄

事

鏡

楊雄

車

楊雄

石

楊雄

石

楊雄

事

重

楊雄

事

楓

楊雄

事

荷

楊雄

披

楊雄

披

掃除りの夜多きこと計り難き

小八田

常盤

ついでに這ふ中へもいづれかし

文祝

松竹や中なるもさるるのり

小三永江

平次

一振るよりいふなりや初るに

歌山

花明

揺らぎぬ海をのりや結いよ

東京

持名

すゝめやし中なるもさるるのり

東京

清雅

清くもあつたなり甲子年

一睡

あつたなり甲子年

中判

何れをいふなり甲子年

お政二年二月廿六日

三松氏

帰寓

東垣の介は浮きなり

白カハ

文弘

す掃や

志名

掃くも

清美

と

カヤ

水西

幸

中ノ

三生

入

カヤ

一羊

り

中ノ

一果

か

ヤト

五亥

り

初時

とくはきつゝまふ人の今ひふ

五才

旭扇

誠なる人ありてなり

小三

文布

林のよきとてなり

羽

鳴風

浮世の如くありてなり

雲山

後記

下 仙傳之建能 西武真子

子南も来たりてなり

祖扇

わつゝを思ふはなり

壯山

きつゝにありてなり

文起

きつゝにありてなり

藤玉

きつゝにありてなり

漸風

きつゝにありてなり

尚重

きつゝにありてなり

北外

きつゝにありてなり

柘ぬ

きつゝにありてなり

重畠

きつゝにありてなり

高風

きつゝにありてなり

柘ぬ

きつゝにありてなり

石峰

梅の枝木伐りて月

甘雨

一と月海よりつるうら

佳山

やととわりの袖の紅より

遠月

子時の雲のつるもあはれ

竹村

所はくはくしとくもあはれ

芳泉

中川と野鳥をぬる新市

松青

まゐるく新の住よりあはれ

一睡

念仏堂のあはれとくは

松峰

春の歌のあはれとくは

文視

もをわくくはの歌のあ

松丘

あはれとくはの歌のあ

富水

あはれとくはの歌のあ

高橋

組板をあらはるの歌のあ

可祝

あはれとくはの歌のあ

如菜

床のあはれとくはの歌のあ

梅海

一語をのりあはれとくは

蒼仙

あはれとくはの歌のあ

米甫

あはれとくはの歌のあ

高竹

あはれとくはの歌のあ

玄之

あはれとくはの歌のあ

雷瑞

山田氏 山田氏

香泉

山田氏 山田氏

香泉

山田氏 山田氏

香泉

山田氏 山田氏

香泉

山田氏 山田氏

山田氏 祭主

香泉

山田氏 山田氏

香泉

山田氏 山田氏

香泉

山田氏 山田氏

山田氏 祭主

香泉

山田氏 山田氏

香泉

山田氏 山田氏

山田氏

香泉

山田氏 山田氏

山田氏

香泉

山田氏 山田氏

山田氏

香泉

山田氏 山田氏

香泉

山田氏 山田氏

香泉

山田氏 山田氏

香泉

山田氏 山田氏

香泉

山田氏 山田氏

香泉

山田氏 山田氏

山田氏 山田氏

山田氏

香泉



御書二名存公事と物とを

おとすなり

山崎

御書ふりし物なり

桶

新

田

一

新

新

新

新

新

新

新

新

